

JIIA Symposium

歴史と和解—国際比較から考える—

History and Reconciliation

—An International Comparative Study—

2017年10月12日（木）10:00—16:40

於：ホテルオークラ東京 地下2階「アスコットホール」

10:00-16:40 Thursday, October 12, 2017

Venue: Ascot Hall (B2F), Hotel Okura Tokyo

(ご注意)

- ・講演中の撮影と録音はご遠慮願います。
- ・ Please note that video/audio recording and photography are strictly forbidden.



公益財団法人 日本国際問題研究所
The Japan Institute of International Affairs

シンポジウム 歴史と和解 ー国際比較から考えるー

主催：日本国際問題研究所

10月12日（木）

於：ホテルオークラ東京 「アスコットホール」（地下2階）

本シンポジウムでは、戦後の歴史を振り返り、さまざまな和解のケースを比較することを通じて、和解を促進する要因、阻害する要因とは何かを考えます。また、和解を阻害する要因としてのナショナリズムに焦点を当て、東アジアにおける歴史和解の可能性についても議論を行います。各国からお招きする専門家も交えた、自由に開かれた議論を通して、多様な見解を共有する場となれば幸いです。

プログラム概要

（9：30- 開場・受付）

10：00-10：10 開会の辞：野上 義二（日本国際問題研究所 理事長）

10：10-10：30 基調講演：北岡 伸一（国際協力機構 理事長）

第一部：「和解の事例研究」

様々な和解の個別事例を比較し、和解を促進した要因に着目して議論します。

10：30-12：00 パネルディスカッション

モデレーター：野上 義二（日本国際問題研究所 理事長）

パネリスト： ブラマ・チェラニー（政策研究センター）
リリー・フェルドマン（ジョンズ・ホプキンス大学）
久保 文明（東京大学法学政治学研究科）
兼原 信克（内閣官房副長官補・国家安全保障局次長）

12：00-13：00 休憩

第二部：「和解の促進要因と阻害要因」

和解に至った事例、和解に至っていない事例の双方を念頭において、ナショナル・アイデンティティ、文化、政治体制などの相違をふまえつつ、和解の促進要因・阻害要因について議論します。

13:00-14:30 パネルディスカッション

モデレーター：高木 誠一郎（日本国際問題研究所 研究顧問）

パネリスト：何忆南（リーハイ大学）

金志英（東京大学総合文化研究科）

坂元 一哉（大阪大学）

トンチャイ・ウィニッチャクン（ウィスコンシン・マディソン大学／ジェトロ・アジア経済研究所）

14:30-14:45 休憩

第三部：「和解とナショナリズム」

第三部は、ナショナリズムに着目し、いつ、どのような場合にナショナリズムが和解の阻害要因となるのか、東アジアにおいて未来志向の関係を築くために何ができるのか、といった論点を取り上げます。

14:45-16:30 パネルディスカッション

モデレーター：相 航一（日本国際問題研究所 所長代行）

パネリスト：細谷 雄一（慶應義塾大学）

張隆志（中央研究院近代史研究所）

楊大慶（ジョージ・ワシントン大学）

朴裕河（世宗大学）

川島 真（東京大学総合文化研究科）

16:30-16:40 閉会の辞：野上 義二（日本国際問題研究所 理事長）

登壇者略歴 (登壇順)



北岡伸一 (国際協力機構 理事長)

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 理事長。東京大学にて博士号 (法学) を修得。専門は日本政治外交史。立教大学法学部教授、東大法学部教授、特命全権大使 (日本政府国連代表部次席代表)、国際大学学長等を経て2015年10月より現職。東大名誉教授。2011年紫綬褒章受章。主要な著作に『清沢汎』(1987、サントリー学芸賞受賞)や『日本政治史—外交と権力』(2011)などがある。



ブラマ・チェラニー (インド 政策研究センター教授)

インド政策研究センター教授。バーバード大学、ブルッキングス研究所、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際関係大学院 (SAIS)、オーストラリア国立大学で兼任職も持つ。ジャワハルラー・ネルー大学で博士号 (国際関係) を取得。専門は国際安全保障と軍備管理。インド国家安全保障会議 (National Security Council) の顧問、国家安全保障顧問理事会 (National Security Advisory Board) の対外安全保障グループ議長を経て現職。プロジェクト・シンジケート、ウォールストリート・ジャーナル紙、ジャパン・タイムズ紙、日本経済新聞、エコノミック・タイムズ紙、タイムズ・オブ・インディア紙でオピニオン欄を担当。多数の著書があり、インド外務省が設置した政策諮問委員会のメンバーを兼任。



リリー・フェルドマン (米国 ジョンズ・ホプキンス大学米国現代ドイツ研究所 上席研究員)

ジョンズ・ホプキンス大学米国現代ドイツ研究所 上席研究員。マサチューセッツ工科大学にて博士号 (政治学) を修得。タフツ大学准教授 (政治学)、ハーバード大学、ジョージタウン大学、米国平和研究所研究員などを経て現職。専門は国際和解、ドイツの外交政策、国際関係における非国家主体の役割など。主要な著作に、Germany's Foreign Policy of Reconciliation: From Enmity to Amity (Lanham, MD: Rowman & Littlefield, 2014)。同大学の Institute's Society, Culture & Politics Program において教鞭を取る。



久保文明 (東京大学法学部政治学研究科教授/日本国際問題研究所上席客員研究員)

東京大学法学部政治学研究科教授。1979年東京大学法学部卒。同大学にて博士号 (法学) を修得。専門はアメリカ現代政治。筑波大学講師・助教授、慶應義塾大学助教授・教授を経て、2003年より現職。この間、ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員、ジョージタウン大学客員研究員、メリーランド大学カレッジパーク校客員研究員、パリ政治学院招聘教授、ウッドロウ・ウィルソン国際センター客員研究員等も務める。この他、日米文化教育交流会議(カルコン)委員、「内閣府宇宙政策委員会安全保障部会」委員などの要職を歴任。16年よりアメリカ学会会長。主要な著作に『アメリカ外交の諸潮流—リベラルから保守まで』(編著、日本国際問題研究所、2007年)や『戦後70年談話の論点』(21世紀構想懇話会編、共著、日本経済新聞社、2015年)などがある。



兼原信克 (内閣官房副長官補・国家安全保障局次長)

1959年生。1981年に東京大学法学部を卒業後、外務省に入省。在アメリカ合衆国日本国大使館公使、在大韓民国日本国大使館公使、内閣官房内閣情報調査室次長、外務省国際法局長等の要職を経て2014年より現職。



何忆南 (米国 リーハイ大学准教授)

米国リーハイ大学国際関係学部准教授。米国マサチューセッツ工科大学にて博士号(政治学)を修得。専門は主に記憶と和解をめぐる政治、東アジアの安全保障、中国および日本の外交政策、ならびに東アジアにおけるナショナル・アイデンティティの動員とナショナリズム。米国の非営利団体である米中全国委員会(NCUSCR)パブリック・インテレクチュアル・プログラム(PIP)フェロー(2011-2013)、プリンストン大学ウッドロー・ウィルソンセンター客員研究員(2012-2013)を経て現職。主要な著作にThe Search for Reconciliation: Sino-Japanese and German-Polish Relations since World War II (Cambridge University Press, 2009)。



金志英 (東京大学大学院総合文化研究科准教授)

東京大学大学院総合文化研究科准教授。ソウル国立大学にて修士号(国際関係)、デラウェア大学において博士号(政治学ならびに国際関係)を取得。専門は東アジアにおける安全保障関係、アイデンティティの政治、日韓関係ならびに日中関係。米国社会科学研究会議および日本学術振興会フェローとしての東京大学における研究員を経て現職。主要な著作に“Rethinking the role of identity factors: the history problem and the Japan-South Korea security relationship in the post-Cold War period,” International Relations of the Aisa-Pacific, Vol.15 (2015)がある。



坂元一哉 (大阪大学教授)

大阪大学大学院教授。京都大学にて博士号(法学)を修得。専門は日米関係史。「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」有識者委員、「外交政策評価パネル」副座長、「いわゆる「密約」問題に関する有識者委員会」メンバーなどを歴任。主な著作に『日米同盟の絆—安保条約と相互性の模索』(2000年、サントリー学芸賞受賞)、『日米同盟の難問—「還暦」を迎えた安保条約』(PHP、2012年)、共著として五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣、1999年)(吉田茂賞受賞)がある。



トンチャイ・ウィニッチャクン (米国 ウィスコンシン・マディソン大学名誉教授/ジェトロ・アジア経済研究所 主任研究員)

ウィスコンシン・マディソン大学名誉教授、ジェトロ・アジア経済研究所 主任研究員。シドニー大学にて修士号ならびに博士号を修得。専門は東南アジアの近現代史で、東南アジア社会と西欧の関わり、シヤムおよびタイ王国史、19世紀後半から現代にいたるまでのタイの文化政治史、ナショナリズムと記憶の問題などについて研究を行ってきた。米国アジア学会長を含む数々の要職を経て現職。主要な著作にSiam Mapped(1994、米国アジア学会ハリー・ベンダ賞受賞)(邦題:『地図が作ったタイ』(2003、アジア・太平洋賞受賞)。



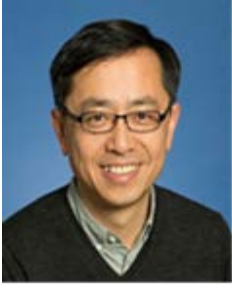
細谷雄一 (慶應義塾大学教授/日本国際問題研究所客員研究員)

慶應義塾大学教授。バーミンガム大学にて修士号(法学)、慶應義塾大学で博士号(法学)を修得。専門は戦後外交史、英国外交史、日本の外交政策等。パリ政治学院の客員教授とジャパン・チェアー、プリンストン大学客員研究員(フルブライト・フェロー)を経て現職。主要な著作に『戦後国際秩序とイギリス外交』(2002、サントリー学芸賞受賞)、『戦後史の解放 I 歴史認識とは何か—日露戦争からアジア太平洋戦争まで』(2015)など。国家安全保障会議(NSC)審議委員会メンバーや世界平和研究所(IIPS)上席研究員、東京財団上席研究員、日本国際問題研究所客員研究員を兼任。



張隆志 (台湾 中央研究院台湾史研究所 副研究員兼副所長)

台湾中央研究院台湾史研究所 副研究員。台湾国立大学にて修士号、ハーバード大学にて博士号(東アジア言語)を修得。専門は台湾および東アジアにおける社会・文化史、植民地主義の比較研究、ならびに現代史。東京大学、ケンブリッジ大学、ハイデルベルグ大学等の客員講師を経て現職。2016年度より日本国際問題研究所の国際歴史共同研究プロジェクトの委員を務める。



楊大慶（米国 ジョージ・ワシントン大学准教授）

ジョージワシントン大学准教授。ハーバード大学にて博士号を修得。日本の各大学ならびにドイツ現代歴史研究所（the Institute for Contemporary History in Germany）等の客員講師を経て現職。専門は現代日本史。アジア・太平洋地域における記憶と現代史（historiography）、日本とアジアの関係、ならびに北東アジアにおける歴史的和解に関する多数の著作を残している。また、共著に *Rethinking Historical Injustice and Reconciliation in Northeast Asia* のほか、*Communications Under the Seas Historical Injustice and Reconciliation* がある。ジョージワシントン大学ジガーアジア研究所（Sigur Center for Asian Studies）における「アジア・太平洋における記憶と和解（プロジェクト）」共同ディレクターを兼任。



朴裕河（韓国 世宗大学教授）

韓国世宗大学教授。慶應義塾大学にて修士号、早稲田大学にて博士号を修得。日本近代文学・思想と、近代の歴史がアジア地域にもたらした葛藤の背景に関して考察を行ってきた。2004年から「韓日、連帯21」を作りナショナリズムを乗り越えての知識人対話を試み、その成果を本にして出版（『東アジア歴史認識のメタヒストリー』）。2015年には範囲を広げて国民・市民間のコミュニケーションを目指す「東アジア和解と平和の声」を発足、和解のための認識生産と拡散方法を模索中。主要な著書に、『反日ナショナリズムを超えて』（2005）、『和解のために—教科書・慰安婦・靖国・独島』（2006、大佛次郎論壇賞受賞）、『帝国の慰安婦』（2014年、アジア・太平洋賞受賞特別賞）など。



川島真（東京大学大学院総合文化研究科教授）

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士学位（文学、東京大学）取得。北海道大学法学部助教授、東京大学大学院総合文化研究科准教授を経て、2015年4月より現職。現在、世界平和研究所上席研究員、日経バーチャルシンクタンク第一分科会アカデミック・アドバイザー、内閣府国家安全保障局顧問などを兼任。中央研究院近代史研究所（台北）、北京日本学研究中心、北京大学、国立政治大学（台北）、ウッドロー・ウィルソン・センターなどで在外研究、教育に従事。中国・台湾の政治外交史、国際関係史を専門とする。『中国近代外交の形成』（名古屋大学出版会、2004年）でサントリー学芸賞受賞。著書に、『近代国家への模索 1894-1925』（岩波書店、2010年）、『チャイナ・リスク』（編著、岩波書店、2015年）、『21世紀の「中華」——習近平中国と東アジア』（中央公論新社、2016年）、『中国のフロンティア——揺れ動く境界から考える』（岩波書店、2017年）などがある。



野上 義二（日本国際問題研究所 理事長）

公益財団法人 日本国際問題研究所 理事長兼所長。1966 年年東京大学を卒業後、同年外務省入省。外務省経済局長、経済開発協力機構(OECD)大使、外務審議官、外務事務次官、駐英大使を経て、2009 年より現職。株式会社みずほ銀行常任顧問を兼任。



相 航一（日本国際問題研究所 所長代行）

公益財団法人日本国際問題研究所 所長代行。1989 年東京大学法学部中退、外務省入省。1992 年米国フレッチャー法律外交大学院にて修士号を修得。在インドネシア大使館参事官、外務省国際法局経済条約課条約交渉官、国際法局海洋室長、総合外交政策局政策企画室長、経済局国際経済課長、在ニューヨーク総領事館広報センター長、(公財) 日本国際問題研究所研究調整部長を経て、2017 年 7 月より現職。



高木 誠一郎（日本国際問題研究所 研究顧問）

公益財団法人日本国際問題研究所 研究顧問。専門は国際政治学、現代中国研究、アジア・太平洋の国際関係。東京大学を卒業後、スタンフォード大学にて博士号を修得。埼玉大学教授、政策研究大学院大学教授、防衛研究所第二研究部部長、青山学院大学教授を経て現職。近時の主要業績としては“*The Taiwan Factor in Japan-China Relations,*” in *Lam Peng Er (ed.), Japan's Relations with China (London and New York: Routledge, 2006)*、「日中『戦略的互惠関係』一進展と課題」（『国際問題』、No.569、2008 年）、「中国外交の新局面：『国際和語権』の追求」（『青山国際政経論集』、第 85 号、2011 年）、*Uneasy Partnerships: China and Japan, the Koreans, and Russia in the Era of Reform (Stanford University Press, 2017)*など多数。国際安全保障学会会長、(財) 霞山会理事、(財) 平和・安全保障研究所評議員を兼任。

Symposium
History and Reconciliation
—An International Comparative Study—

Organized by The Japan Institute of International Affairs (JIIA)
Thursday, October 12, 2017
Venue: Ascot Hall, B2F, Hotel Okura Tokyo

This Symposium will look back on post-war history and compare various cases of reconciliation to consider the factors promoting and hindering reconciliation. The potential for historical reconciliation in East Asia will also be discussed, with a focus on nationalism as a factor hindering reconciliation. We look forward to hearing a diversity of opinions in free and open discussions that will include guest experts from various countries.

Programme

(9 : 30 Doors Open)

10:00-10:10 Welcoming Remarks by Amb. Yoshiji NOGAMI (President, JIIA)

10:10-10:30 Keynote Speech by Shinichi KITAOKA
(President, Japan International Cooperation Agency)

Part I “Case Studies on Reconciliation”

Part I looks at cases of relatively successful reconciliation from today’s perspective to gain new insights.

10 : 30-12 : 00 Panel Discussion

Moderator: Amb. Yoshiji NOGAMI (President, JIIA)

Panelists : Brahma CHELLANEY (Professor, Centre for Policy Research)

Lily Gardner FELDMAN (Senior Fellow, American Institute for Contemporary
German Studies, Johns Hopkins University)

Fumiaki KUBO (Professor, the University of Tokyo)

Nobukatsu KANEHARA (Assistant Chief Cabinet Secretary/ Deputy Secretary-General,
National Security Secretariat)

12 : 00-13 : 00 Break

Part II “What Promotes and Prevents Reconciliation?”

Part II examines why there have been successful and unsuccessful cases of reconciliation. It sheds light on the effects of identity, culture, and political system as promoting and preventing factors.

13 : 00-14 : 30 Panel Discussion

Moderator : Seiichiro TAKAGI (Senior Research, Advisor, JIIA)

Panelists : Yinan HE (Associate Professor, Lehigh University)

Ji Young KIM (Associate Professor, Graduate School of Arts and Sciences, the University of Tokyo)

Kazuya SAKAMOTO (Professor, Osaka University)

Thongchai WINICHAKUL (Professor Emeritus, University of Wisconsin-Madison / Institute of Developing Economics, Japan External Trade Organization)

14:30-14:45 Break

Part III “Reconciliation and Nationalism”

Part III focuses on nationalism. How and when does nationalism transform into a factor preventing reconciliation? How can we build future-oriented relations in East Asia?

14:45-16:30 Panel Discussion

Moderator: Koichi AI (Acting Director-General, JIIA)

Panelists : Yuichi HOSOYA (Professor, Keio University)

Lung-chih CHANG (Deputy Director, Institute of Modern History, Academia Sinica)

Da-qing YANG (Associate Professor, George Washington University)

Yu-ha PARK (Professor, Sejong University)

Shin KAWASHIMA (Professor, Graduate School of Arts and Sciences, the University of Tokyo)

16:30-16:40 Closing Remarks by Amb. Yoshiji NOGAMI (President, JIIA)

Keynote Speaker, Panelists and Moderators



Shinichi KITAOKA (President, Japan International Cooperation Agency)

Dr. Shinichi Kitaoka has been president of the Japan International Cooperation Agency since October 2015. He received his PhD from the University of Tokyo. Before assuming his present post, he was a professor at the Graduate Schools for Law and Politics, University of Tokyo (1997-2004, 2006-2012), Deputy Permanent Representative of Japan to the United Nations (2004-2006), and President of International University of Japan (2013-2015). His area of specialty is modern Japanese politics and diplomacy. He received the Medal of Honor (Purple Ribbon) for his academic achievements in 2011.



Brahma CHELLANEY (Professor, Centre for Policy Research)

Dr. Brahma Chellaney is a professor of strategic studies at the CPR. He received his PhD from Jawaharlal Nehru University. As a specialist in international security and arms control issues, he worked at Harvard University, the Brookings Institution, the School of Advanced International Studies at Johns Hopkins University, and the Australian National University. He is the author of nine books, and has served as a member of the Policy Advisory Group headed by the foreign minister of India. Until January 2000, he was an advisor to India's National Security Council and a convener of the External Security Group of the National Security Advisory Board.



Lily Gardner FELDMAN (Senior Fellow, American Institute for Contemporary German Studies, Johns Hopkins University)

Dr. Lily Gardner Feldman is a Harry & Helen Gray Senior Fellow at the American Institute for Contemporary German Studies at Johns Hopkins University, and directs its Society, Culture & Politics Program. She received her PhD in Political Science from MIT. She was an associate professor of political science at Tufts University in Boston, and a research fellow at Harvard University, Georgetown University and the US Institute of Peace. She has publications on a wide range of issues such as international reconciliation, German foreign policy, and non-state actors in the international arena. One of those is *Germany's Foreign Policy of Reconciliation: From Enmity to Amity* (2014).



Fumiaki KUBO (Professor, the University of Tokyo)

Dr. Fumiaki Kubo, a senior visiting scholar at the Japan Institute for International Affairs, has been A. Barton Hepburn Professor of American Government and History at the Graduate Schools for Law and Politics at the University of Tokyo since 2003. He received his BA in 1979 and his PhD in 1989 from the University of Tokyo. Afterwards, he studied at Johns Hopkins University (1991-1993), Georgetown University, and the University of Maryland (1998-99). He was also an invited professor at SciencesPo in Paris in the spring of 2009, and a Japan Scholar at the Woodrow Wilson International Center for Scholars in 2014. Since 2016, he has been the president of the Japanese Association for American Studies. His recent publications include *Ideology and Foreign Policy After Iraq in the United States* (2007), *Toward the Abe Statement on the 70th Anniversary of the End of World War II* (2015).



Nobukatsu KANEHARA (Assistant Chief Cabinet Secretary/Deputy Secretary-General, National Security Secretariat)

Mr. Nobukatsu Kanehara is Assistant Chief Cabinet Secretary and Deputy Secretary-General of the National Security Secretariat. He was born in 1959. After graduating from the University of Tokyo with a bachelor's degree in law, he joined the Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA) in 1981. He has held various key positions in MOFA and the Cabinet Secretariat. These include Minister for Political Affairs at the Embassy of Japan in the United States of America (2004-2006), Minister for Political Affairs at the Embassy of Japan in the Republic of Korea (2011-2012), Deputy Secretary-General of the Cabinet Intelligence and Research Office (2012), and Director-General of the International Legal Affairs Bureau at MOFA (2012). He has been in his current position since 2014.



Yanan HE (Associate Professor, Lehigh University)

Dr. Yanan He is an associate professor in the Department of International Relations at Lehigh University. She received her PhD in political science from MIT. Her research focuses on the politics of memory and reconciliation, East Asian international security, Chinese and Japanese foreign policy, and national identity mobilization and nationalism in East Asia. She is the author of *The Search for Reconciliation: Sino-Japanese and German-Polish Relations since World War II* (2009). In 2011-2013, she was a Public Intellectuals Program (PIP) Fellow of the National Committee on United States-China Relations. In 2012-2013, she was also a visiting fellow at the Woodrow Wilson School of Princeton University.



Ji Young KIM (Associate Professor, Graduate School of Arts and Sciences, the University of Tokyo)

Dr. Ji Young Kim is an associate professor in the Department of Area Studies, Graduate School of Arts and Sciences, the University of Tokyo, Japan. She received her MA in International Relations from Seoul National University and her PhD in Political Science and International Relations from the University of Delaware (US). Dr. Kim was an SSRC (Social Science Research Council, USA) and JSPS (Japan Society for the Promotion of Science, Japan) research fellow at the University of Tokyo. Her research interests include East Asian security relations, identity politics, South Korea-Japan relations, and Sino-Japan relations among others.



Kazuya SAKAMOTO (Professor, Osaka University)

Dr. Kazuya Sakamoto graduated from the Law Department of Kyoto University in 1979, and in 1981 received his master's degree from there. From 1982 to 1985, he studied diplomatic history at Ohio University, after which he served as a research assistant in the Law Department at Kyoto University and an associate professor in the School of Humanities and Social Sciences at Mie University and the Law Department at Osaka University. Currently he is a professor at the Graduate School of Law and Politics at Osaka University specializing in international politics and diplomatic history. Professor Sakamoto co-authored *Sengo Nihon Gaiko-shi* (Japan's Postwar Diplomatic History), winner of the Yoshida Shigeru Prize in 1999, and authored *Nichibei Domei no Kizuna* (The Bonds of the Japan-US Alliance), winner of the Suntory Academic Prize in 2000. He was awarded a doctorate from Kyoto University in 2002.



Thongchai WINCHAKUL (Emeritus Professor, University of Wisconsin-Madison/ IDE-JETRO)

Dr. Thongchai Winichakul is Emeritus Professor of History, University of Wisconsin-Madison (USA), and currently Senior Researcher at the Institute of Developing Economies (IDE-JETRO) in Japan. His book *Siam Mapped* (1994) was awarded the Harry J Benda Prize from the Association for Asian Studies (USA) and the Grand Prize from the Asian Affairs Research Council (Japan). He was elected to the American Academy of Arts and Sciences in 2003, and was the President of the Association for Asian Studies in 2013/14. His research interests are in the cultural and intellectual history of Siam. He is writing a book on the memories of the 1976 massacre in Bangkok.



Yuichi HOSOYA (Professor, Keio University)

Dr. Yuichi Hosoya is a professor of international politics at Keio University in Tokyo, a member of the Advisory Board for Japan's National Security Council (NSC) and was a member of several panels on national security. He studied international politics at Rikkyo University (BA), the University of Birmingham (MIS), and Keio University (PhD). He was a visiting professor and Japan Chair (2009–2010) at Sciences-Po in Paris (Institut d'Études Politiques), and a visiting fellow (Fulbright Fellow, 2008–2009) at Princeton University. His research interests include postwar international history, British diplomatic history, Japanese foreign and security policy, and contemporary East Asian international security. He has a number of publications, and those in English include *The Atlantic Community and the Restoration of the Global Balance of Power: The Western Alliance, Japan, and the Cold War, 1947–1951*. He also gives commentaries in both Japanese and major global newspapers such as the *New York Times* and *Le Monde*.



Lung-chih CHANG (Associate Research Fellow, Institute of Taiwan History Academia Sinica)

Dr. Lung-chih Chang is an associate research fellow and the former deputy director of the Institute of Taiwan History at Academia Sinica in Taiwan. He received his BA and MA in History from National Taiwan University and his PhD in History and East Asian Languages from Harvard University. Dr. Chang was a visiting scholar at the University of Tokyo, the University of Cambridge and Heidelberg University. His research interests include social and cultural history, colonialism, and contemporary historiography in Taiwan and East Asia. He is a member of JIIA's three-year (FY2016-2018) research project: *Transnational Joint Research on the History of Asia in the 20th Century*.



Da-qing YANG (Associate Professor, George Washington University)

Dr. Daqing Yang is an associate professor of history and international affairs at George Washington University, where he teaches modern Japanese history. He is also a co-director of the Memory and Reconciliation in the Asia-Pacific Project at the Sigur Center for Asian Studies at George Washington University. He has many publications on the memory and historiography of the Asia-Pacific War, Japan's relationship with Asia, and historical reconciliation in Northeast Asia. He is a co-editor of *Rethinking Historical Injustice and Reconciliation in Northeast Asia* (2006) and *Communications Under the Seas – The Evolving Cable Network and its Implications* (2009). He received his PhD from Harvard University and was a visiting scholar at several Japanese universities and, most recently, at the Institute for Contemporary History in Germany.



Yu-ha PARK (Professor, Sejong University)

Dr. Yu-ha Park is a professor at Sejong University in South Korea. She has researched the background of conflicts in the East Asian region and their impacts on Japanese modern literature, philosophy and modern history. In 2004, she established the “Japan-Korea Solidarity 21” consortium with Japanese academics pursuing intellectual communication over nationalism, and published a book -- *Meta-history of the Conflict in Perception between Korea and Japan* – based on the consortium’s findings. In 2015, she established a “Voices of Reconciliation and Peace in East Asia” program to enhance communication among citizens of the region in pursuit of a generation that shares mutual understanding.

Her major publications are *Overcoming Anti-Japanese Nationalism, For Reconciliation: Textbooks, Comfort Women, Yasukuni Shrine and Liancourt Rocks, National Identity and Gender: Soseki, Literature and Modernization, Comfort Women of the Empire: Colonial Rule and the Conflict of Memories*, and *Prolegomenon of the Literature of Repatriation: Toward a Post Post-colonial Era* (Japanese edition).



Shin KAWASHIMA (Professor, Graduate School of Arts and Sciences, the University of Tokyo)

Dr. Shin Kawashima is a professor at Graduate School of Arts and Sciences, the University of Tokyo. He graduated from the Tokyo University of Foreign Studies (BA, 1992) and the University of Tokyo (MA, 1992, and PhD, 2000, in Oriental History). He also taught at Hokkaido University (1998-2006). He served as a visiting scholar at Academia Sinica in Taipei (1995-96), the Beijing Center for Japanese Studies (vice director, 2000-2001, 2015-16), National Chengchi University in Taipei (2005) and Beijing University, and Japan Scholar at the Woodrow Wilson International Center for Scholars (2009). He has researched Chinese diplomatic history based on Chinese diplomatic archives and recently started a study on the history of radio in East Asia. His first book, *The Formation of Chinese Modern Diplomacy* (2004), was awarded the Suntory Academic Prize in 2004.



Yoshiji NOGAMI (President, Japan Institute of International Affairs)

Mr. Yoshiji Nogami is President and Director General of the Japan Institute of International Affairs and Executive Advisor to Mizuho Bank, Limited. From 2004 to 2008, he was Japanese Ambassador to the UK. After graduating from the University of Tokyo in 1966, he joined the Japanese Ministry of Foreign Affairs, where he served as Deputy Director-General of the Middle Eastern and African Affairs Bureau and the Foreign Policy Bureau, Director-General of the Economic Affairs Bureau, Deputy Minister for Foreign Affairs, and Vice-Minister for Foreign Affairs of Japan. His overseas posts include Economic Counsellor at the Embassy of Japan in the US, Consul-General in Hong Kong and Ambassador to the OECD in Paris. He was a Senior Visiting Fellow at the Royal Institute of International Affairs.



Koichi AI (Director General(Acting), JIIA)

Mr. Koichi Ai is Director General (Acting) of the Japan Institute of International Affairs. He joined the Japanese Ministry of Foreign Affairs in 1989 and has been posted to Washington DC, Ottawa, Jakarta, and New York. The Foreign Ministry positions he has held include: Counsel for Treaties Negotiation; Director, Ocean Affairs; Director, Policy Planning; and Director, International Economy. He assumed his present position at JIIA in July 2017.

Mr. Ai studied law at the University of Tokyo and subsequently earned his master's degree from the Fletcher School of Law and Diplomacy. He holds a private pilot license and is a scuba diving instructor.



Seiichiro TAKAGI (Senior Research Advisor, JIIA)

Dr. Seiichiro Takagi has been Senior Research Advisor at the Japan Institute of International Affairs since 2011 and is Professor Emeritus, National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS). He specializes in Chinese foreign relations and security issues in the Asia-Pacific region. He obtained his MA and PhD from Stanford University.

He served at the Graduate School of Policy Science of Saitama University (which became the National Graduate Institute of Policy Studies (GRIPS)), as director of the Area Studies Research Department at the National Institute for Defense Studies, and as a professor at Aoyama Gakuin University.

He is the president of the Japan Association for International Security, a member of the Japan Committee of the Council for Security Cooperation in the Asia-Pacific (CSCAP), and a governing board member of the Kazankai Foundation and Councilor of the Research Institute for Peace and Security. He recently published "Japan and the Rise of China" in Thomas Fingar, ed., *Uneasy Partnerships: China and Japan, the Koreans, and Russia in the Era of Reform* (Stanford University Press, 2017).